

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 1 年次生 乾 智美

1. はじめに

2018 年 8 月 18 日から 27 日までの 10 日間、国際交流基金の助成を受け、カナダのバンクーバーで行われたサマープログラムに参加しました。語学学校で医療英語を学んだり、カナダの医療施設を見学したりしました。日本とカナダでは医療制度が大きく異なっていました。また、ホームステイを通じてカナダと日本の文化の違いを実感することができました。

2. 語学学校

Vancouver International College (VIC) という語学学校で医療英語を学びました。VIC はバンクーバーのダウンタウンにあり、まわりは大型のショッピング施設やカフェ、ファストフード店などで賑わっていました。私は特別授業を受けていたのでクラスメイトは同じ大学から来た人達でしたが、他の教室には様々な国籍の生徒達がいました。

医療英語レッスンは主に午前中に行われました。先生は医療の専門家ではなかったのですが、丁寧に教えてくださいました。授業はディスカッションを中心に進められました。参加者が 1 年生から 4 年生までと幅広かったこともあり、ついていけなくなってしまうこともありました。そのときは 4 年生の先輩方や先生がわかりやすく教えてくださいましたので、心強かったです。

また、この学校には「学校の中にいる間は英語しか話してはいけない」というルールがありました。そのおかげで人前に出た時でも英語を話すことに抵抗がなくなりました。



卒業式で先生と



VIC にて

3. 医療施設訪問

午前中に語学学校で医療英語を学んだあと、午後からは主に現地の医療施設の見学を通して日本の医療との違いを学びました。見学した場所は、UGM RECOVERY CENTRE、薬局、VANCOUVER GENERAL HOSPITAL、そして SPROTT SHAW COLLEGE です。

UGM RECOVERY CENTRE は、薬物やアルコールの依存症からの自立支援を行う施設で、多くのボ

ランティアが関わっています。運営は約 1500 万円の寄付金から賄われており、支援者は約 4 万人いるそうです。毎日働いている人には給料が支払われますが、そうでない人は本当にボランティアで働いています。中には温かくておいしいご飯が食べられる食堂があり、そこでは有名レストランのシェフもボランティアしているそうです。

バンクーバーは家賃が高く、気候もカナダの中では比較的温暖であるため、約 3000 人のホームレスがいます。家があってもガスや電気が十分に使えない人もいるので、そういう人達の為に朝の 7 時 30 分から自由に入ることができるようになっています。ここに来た人達同士でコミュニケーションを取ったり、カウンセラーと話したりすることでメンタルを支えあい、自立に向けて自分と向き合うことができます。職員が対処できなければ、施設の周りにあるたくさんの専門医に相談して自立を目指します。この施設から自立をした人が、自立を目指す人を支える立場になることもあります。身のまわりの事全てをしてあげるのではなく、自分で出来ることを増やして社会復帰が出来るようサポートしています。

SPROTT SHAW COLLEGE は総合専門学校であり、薬剤師アシスタントや看護関連プログラムなどを提供しています。ここでは薬学、法律、薬の作り方などの専門知識だけでなく、仕事を行うのに必要なスキルを身につけるために、一般教養も学ぶことができます。

病院では薬の盗難を防ぐため、調剤業務を行っている部屋の扉には何の目印もなく、暗証番号を入力しないと入ることができないようになっていました。

4. 医療制度

カナダでは薬剤師 (Pharmacist) とは別に、“Technician” と “Assistant” という職業があります。薬剤師は主に医師から送られてくる処方箋のチェックや、患者のカウンセリングを行います。ほとんどの医師は手書きで処方箋を書くので、読むのが大変だと仰っていました。Technician や Assistant は調剤業務やピッキングを行います。IV 専門の Technician もいて、その人は専門の学校に行かなければなりません。Technician がいなければ Assistant は働けません。Technician と Assistant の違いはそれくらいで、業務内容の違いはありませんでした。

また、カナダでは保険金を払っていると基本的な医療費や薬代は無料になります。日本では三割負担しなければならないので、その制度は良いと思いました。

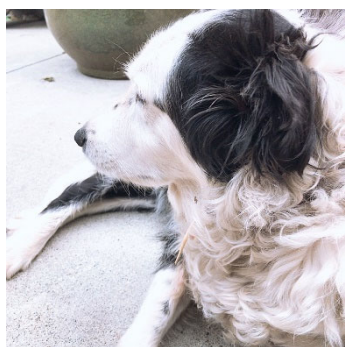
5. ホームステイ

カナダでは、ホームステイをして暮らしました。初めてのホームステイで緊張していた私を、ホストファミリーは温かく迎え入れてくれました。家族構成は、お母さん、お父さん、お兄さんと弟さん、そして 1 匹の犬でした。お母さんは本当の家族のように優しく、お父さんは陽気でとても明るい方でした。そして、私の他にも韓国人留学生 1 人と日本人留学生 2 人がいました。夜は留学生同士の交流として、トランプをして過ごしたり、休日には一緒にお出かけをしたりしました。

朝食はパン又はシリアル、昼食はサンドイッチやパスタ、夕食はパスタとソーセージでした。

ソーセージはイタリアンソーセージで、日本ではあまり食べることがなかったので新鮮な気持ちになりました。

ホームステイ先から語学学校まではバスと電車で 30 分程度と、ダウンタウンまでのアクセスも良かったです。交通機関での移動には、コンパスカードと呼ばれる IC カードを使います。朝の電車は日本と同じように通勤ラッシュがあり、とても混雑していました。降りるバス停が近くと横にあるロープを引っ張るか、降車ボタンを押すというシステムでした。日本にはロープがないので初めは驚きました。



ホームステイ先の犬



カナダのトランプ

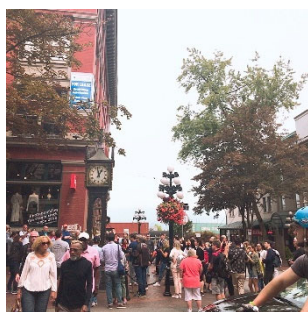


イタリアンソーセージとパスタ

6. 観光

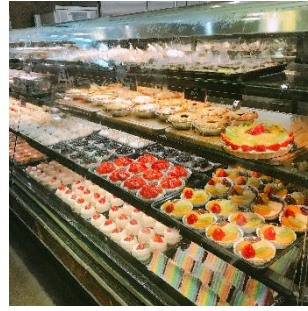
休日を使い、日本人留学生と一緒に Gastown と GRANVILLE ISLAND に行きました。

Gastown では美しい蒸気時計を見ました。ちょうど時計がある場所に着いた時に音楽が流れましたが、それは日本の学校で使われているチャイムの音と同じでした。Gastown はカナダの中でも危険度が高いと言われているチャイナタウンに近く、ホームレスや薬物中毒の人が多くいました。日本ではあまりそういった場所に近づくことがないので少し怖かったです。



Gastown の蒸気時計

GRANVILLE ISLAND は、日本でいう市場や土産物店のようなお店がある場所で、色とりどりのケーキや野菜、ポストカード、衣服、キッチン用品など様々なものが売られており、お店を見て回るだけでも楽しかったです。中には、日本の物を売っているお店もありました。海に近く、雨が降っていたこともあり肌寒かったですが、休日だったので多くの人で賑わっていました。



GRANVILLE ISLAND にて

7. まとめ

今回のプログラムでは、医療英語を学んだり、カナダと日本の医療制度の違いを知ることができたりと、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、他学年との交流を介して、自分の知識の幅を大いに広げることができたと感じています。ホームステイでは、文化の違いや自分の意思を伝えることの重要性を学ぶことができ、本当に参加して良かったと思いました。また、異文化に触れあうことで視野が一気に広がると思うので、これからもこういったプログラムに積極的に参加したいと思いました。

今回のプログラムに参加することを勧めてくれた家族や、関わってくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、学んだことを今後の学生生活にしっかり活かしていきたいと思いました。